

令和2年7月28日

関係各位

熊本大学大学院生命科学研究部産科婦人科学講座
教授 片渕秀隆

拝啓

7月3日の夜から4日の未明、人吉盆地を西流する球磨川とその支流の氾濫によって人吉市と球磨村に大きな被害が発生しました。この地域には、産婦人科施設として2つの総合病院と2つの個人施設があり、年間約600例の分娩を扱っていますが、この2つのクリニックが現在も機能不全の状態です。JCHO 人吉医療センターに産科を集約し、3名の常勤に加え教室から医師を派遣し、急場を凌いでいる状況です。5年前の熊本地震でも寺田寅彦の言葉を私たちは実感しましたが、今回もまたかという気持ちです。皆様の物心両面のご支援をお願い致します。

避けられない用件で4か月ぶりに東京に出向きました。阿蘇くまもと空港の様変わりに先ず驚きました。東京のある高名な研究所所長と時間を共有しました。エレベーターのボタンをはじめ直に手指を触れない、エタノールを部屋の入口に常置するばかりか個人で携帯する、タクシーは使用せず自家用車で行動するなど、知識人の言動を垣間見て、都会の深刻さを痛感しました。同時に、熊本に帰って自分の発症を心配するのはもとより、家族や伴に働く人たちや患者さんに潜伏期間にうつしてしまうのではないかといい今までにない恐怖を感じました。政令指定都市にあって熊本市の感染者が少ないのは、熊本地震という未曾有の経験で危機意識を学んだことによるところも大きいと思っていました。感染者ゼロの岩手県の達増拓也知事はその理由を尋ねられたインタビューで、「東日本大震災の被災経験が大きい。いざというときに何が大事で、何をしなければいけないのかを県民1人1人が自分で考え、自分で行動することができている」と答え、まさに首肯する発言でした。彼は、外務省在職時の20代前半の時に、米国ジョージ・ホプキンス大学の高等国際問題研究大学院に留学したことが現在のホワイトハウス流危機管理を学んだきっかけとも述べています。

8月と9月の予定表を同封致しました。7月の熊本産科婦人科学会学術講演会を事務局の努力で無事に終えることが出来ましたので、暫くはウェビナー形式の講演会を主体に開催致します。最終回となります『K's ギネ・パソ塾 2020』を8月1日（土）、2日（日）に、収録講義の視聴とZoomを用いたバーチャル顕微鏡スライドのライブ解説で行います。今回は塾生以外の動画視聴の受講生も募集しましたところ、全国から450名を越える応募がありました。熊本県内の塾生以外の方もこの中に含まれています。応募締切りは過ぎましたが、ご希望の方は7月末までに事務局までご連絡下さい。

敬具